

NEWS RELEASE

No. 14-01

2014年 4月23日
(公財)損害保険事業総合研究所

損保総研 産学連携の新たな取組み 早稲田大学大学院会計研究科へ「損害保険の数理と会計」の講師を派遣

損保総研は早稲田大学大学院会計研究科（以下、会計研究科）が新規に開講する実務・応用科目「損害保険の数理と会計」の講師として損保総研フェローの滑川文明氏（東京海上日動火災出身）を派遣し、2014年4月9日に初講義が行われた。

（講義概要は後記の通り。）

損保総研は産学連携の一環として、大学とのコラボレーションによる学術振興に注力しており、R I S（全国学生保険学ゼミナール）への賛助や、年間大会における学生へのアドバイスをを行っているほか、最近では、各大学の保険学ゼミナールの学生を招聘してのワークショップ開催等、積極的な取組みを進めている。

今般の早稲田大学大学院への講師派遣も産学連携の新たな取組みとして注目される。会計研究科は、将来的に損害保険会社の監査業務等行う公認会計士を輩出すべく、アクチュアリー関連科目の強化として「損害保険の数理と会計」を加えることで、カリキュラムの強化を図ったもの。受講者は会計研究科の学生に加えて、基幹理工学研究科からの受講もある。

講師の滑川文明氏は、欧米の現地法人経営に携わった経験があり、理論学習を通じて実践知識を習得できる講義として期待される。

講義概要

損害保険の損益構造、経営分析、保険料率算定、再保険、保険負債見積り、資本の安全性（ソルベンシー）など数理が関連する分野にも触れつつ、損害保険会社に特徴的な経理関連業務全般について学習。I B N R 算定等の数理分野については、数理計算手法を具体的に基き説明した上で、練習問題を文系数学の範囲で解いてもらい、数理計算スキル&マインドを身につける。

各回の講義予定内容

- 第1回: 損害保険の概念、歴史、マーケットの現状、保険業法等の会計関連規定
- 第2回: 損害保険事業の仕組み、財務諸表と損益構造
- 第3回: 損害保険料率の設定(含む、料率算出機構)
- 第4回: 再保険の概念、種類、損害率標準化の仕組み、金融マーケットとの接点
- 第5回: 責任準備金(未経過保険料、異常危険準備金等)
- 第6回: 責任準備金(含む、自賠責、地震保険の構造、会計処理)
- 第7回: 保険金支払いプロセスと支払備金
- 第8回: 既発生未報告損害(IBNR)算定
- 第9回: 損害保険会社の経営分析と格付け
- 第10回: 損害保険会社の海外進出形態と会計税務処理、租税条約の適用(含む、タックスヘブン、キャプティブ)
- 第11回: 損害保険会社の事務会計、IT、内部統制、税務
- 第12回: 海外損害保険子会社の経理ガバナンス

第13回;世界的な損害保険監督行政の動向と損害保険会社の統合リスクマネジメント(ソルベンシーマネジメント)

第14回;損害保険をめぐる国際会計基準適用の論点

第15回;ロイズオブロンドンの特殊性と会計処理、理解度確認テスト



本件に関するお問い合わせ先

〒101-8335 千代田区神田淡路町2-9

公益財団法人 損害保険事業総合研究所

教育研修部 小笠原 正恭 TEL 03-3255-5512